



Title	「アフリカの健康、水、いのち」
Author(s)	中村, 安秀
Citation	目で見るWHO. 2013, 52, p. 15-16
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86719">https://doi.org/10.18910/86719</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



## 「アフリカの健康、水、いのち」

(Health, Water and Quality of Lives in Africa)

第5回アフリカ開発会議(TICAD V)は平成25年6月1日から3日間、パシフィコ横浜で開かれました。アフリカの国々の開発をどう進めるのか話し合う会議は、アフリカ大陸の54カ国中51カ国並びに多くの国際機関が参加し国際会議場で開催されました。展示場ではアフリカ諸国や協力企業が出展し、アネックスホールではNPO/NGO、公的機関や国際機関などによるサイドイベントが開催されました。公益社団法人 日本WHO協会もこのサイドイベントにおいて「アフリカの健康、水、いのち」をテーマにフォーラムを開催致しました。

日本のNGO/NPO、企業、研究者、学生等様々な立場の人たちが、アフリカに出かけて、現地の健康課題に取り組む最前線の状況を生の体験談として紹介しました。WHO神戸センターのアレックス・ロス所長はじめ国内外から約130人が来場されました。6人のプレゼンテーションの後、会場参加者からもコメントがあり、質疑応答も活発に行われました。アフリカの健康と日本の貢献について共に考える有意義なフォーラムとなりました。

まずは、ファシリテーターとしてこの企画をまとめていただいた中村先生の開会の挨拶から報告します。

中 村 安 秀



Yasuhide NAKAMURA

公益社団法人 日本WHO協会理事

大阪大学大学院 人間科学研究科 国際協力学・教授

1977年東京大学医学部卒業。小児科医。JICA専門家や UNHCR などにおいてグローバルな保健医療活動に取り組む。NPO法人 HANDS 代表理事、日本WHO協会理事。学際的な視点から市民社会に役立つ研究や教育に携わっている。最近スーダン共和国に通っているが、どこの国にいても子どもがいちばん好き。

2000年9月に採択された国連ミレニアム宣言では、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッド・ガバナンスなどを課題として掲げました。そして、90年代の多くの国際会議やサミットで提唱された開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめたものがミレニアム開発目標(Millennium Development Goals:MDGs)です。乳幼児死亡率の削減、妊産婦の健康改善、感染症対策だけでなく、基礎教育、ジェンダー、貧困、環境対策など多くの項目が、WHO(世界保健機関)の活動と密接に関連しています。

いま世界は、ミレニアム開発目標のカウントダウンに入っています。とくにアフリカの多くの国においては、WHOの活動と直結している目標4(乳幼児死亡率の削減)、目標5(妊産婦の健康改善)、目標6(感

染症対策)の達成が危ぶまれています。また、同時に2015年以降を見据えた、ポストMDGsの議論も始まっています。

グローバルな開発課題の多くは、アフリカが抱える諸問題と重なっています。アフリカ大陸は、世界で最も貧困人口の割合が高く、紛争や飢饉、感染症(特にHIV/エイズ、マラリア、結核など)、気候変動、さらには累積債務など困難な課題が集中し、深刻な課題を抱えた地域です。乳児死亡率(出生1000 当たり、1歳未満の死亡数)でみると、日本は2.4ですが、アフリカは75。日本の30倍以上になります(図1)。成人のHIV/エイズ感染率は、アフリカでは3.9%。東部・南部アフリカでは7.2%(成人の約14人にひとり)にのぼります。日本と比べると格段の違いですが、世界全体と比較してもアフリカの抱える深刻さが明

らかです(図2)。

このサイドイベントでは、民間企業、市民団体、学術界などとともに世界の健康問題に取り組んできた

日本WHO協会の経験と活動を活かし、「アフリカの健康、水、いのち」をみなさまとともに考えていきます。医学や医療が果たす役割は大きいけれど、医療

の専門職だけの関与では、アフリカをはじめ途上国の人びとのいのちや健康を守ることはできません。地球の未来をひらくために、第5回アフリカ開発会議(TICAD V)に参加した多くの市民や国際協力関係者とともに、企業、NGO、政府機関、国際機関などの幅広いネットワークを構築することにより、このイベントが将来のアフリカの人びととの連帯や共感につながっていくことを期待しています。

図1 乳児死亡率の比較(2010年)  
出生1000あたりの死亡率  
(ユニセフ子ども白書2012)

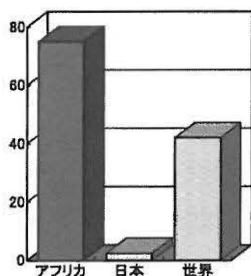


図2 HIV/エイズ感染率の比較(2010年)  
成人(15~49歳)の推定感染率率  
(ユニセフ子ども白書2012)

